

鈴木雅次顧問の逝去を悼む

本会の顧問 鈴木雅次先生には、去る昭和62年5月28日永眠されました。(享年98)

ここに謹んで哀悼の意を表します。

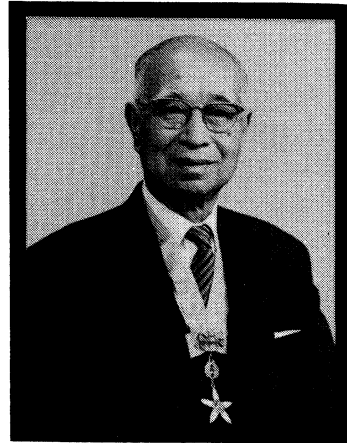
社団法人 日本都市計画学会

鈴木雅次顧問は去る昭和62年5月28日東京都大田区田園調布のご自宅で98才の天寿を全うされた。

先生のご経歴を簡単に述べると、明治22年松本市に生まれ、第8高等学校を経て、九州帝国大学工科大学土木工学科を大正3年に卒業された。同大学土木工学科の第1回卒業生である。卒業後は直に内務省に奉職され、東京土木出張所（現在の建設省関東地方建設局の前身）を振り出しとして、内務省土木局第2及び第1技術課長、東京土木出張所長を歴任され、昭和17年3月から昭和20年4月まで、内務技監を務めて退官されている。

当時の港湾行政は戦時中に運輸通信省ができるまでは内務省の所管であった。先生は夙に港湾の機能、運営に着目され、特に臨海工業地帯の計画、経営については先覚的研鑽を積まれ、資源僅少なわが国の工業立国の基礎的体系を固められた。

昭和20年内務省を退官された後はわが国の混迷した変革期に際して、従前から関係の深かった学究の分野即ち日本大学工学部教授に転向され、更に同大学の国土総合開発研究所長を分掌され、新分野の開拓と後進の育成に満身の努力をされた。特にO.R. (Operation Reserch) の土木分野における応用に着目され、更に土木計画学の新分野の開拓に尽力された。



それらの業績が高く評価されて土木学界でははじめて昭和43年に文化勲賞を受賞されたことは周知の通りである。

本学会としては昭和40年に規約を改正した機会に、会長の諮問機関として顧問制度を設け、その際に武居高四郎、金子源一郎、中沢誠一郎の諸氏と共に顧問にお願いして、特に地域開発計画などについてご指導を賜ってきた。本学会としても真に重要な先覚者を喪ったことは哀悼の念に堪えないところであるが、わが国の土木工学、都市・国土計画の分野としても偉大なるパイロットを亡くしたことは重大な損失であると信ずるものである。

甚だ簡単乍ら、先生の業績、功績の一端を追憶して、ご冥福を心から祈る次第である。

名誉会員 奥田 教朝